

第40号

2018年 9月1日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail:kouhou@kbsheinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680



琵琶湖キャンプ



今年度も、神戸真生塾夏の恒例行事「琵琶湖キャンプ」に行ってきました！

今年度は台風の通過があり、1日短縮して1泊2日となりましたが、乳児院からも子ども達も職員が参加し、計62名で行いました。

突然の短縮でのキャンプとなり、子ども達からも「早く行きたいー」「今年はキャンプあるの？」等たくさん声がありました。ですが、いざ実施となると子ども達も暑さにやられてしまわないかと、心配していましたが、松林に囲まれて環境も良く元氣いっぱい遊ぶ子ども達の姿を見て私自身も元氣をもらい楽しく過ごすことができました。

プログラムの変更も行って、例年に比べ遊泳時間が短くなってしまいましたが、広い琵琶湖で泳いだり、潜ったり、浮き輪でぶかぶか浮かんだり最後まで湖水浴を満喫していました。休憩時間に食べるすいかも琵琶湖の砂浜で食べるのは普段と違

い、一段とおいしく感じたことと思います。

夜のプログラムはギュッと詰まった中身の濃い時間を過ごしました。みんなが大好きなカレーライスを食べた後はお待ちかねのキャンプファイヤー！その前に、ドンッと大きな打ち上げ花火も見ました。キャンプファイヤーでは、初めてやるゲームもあり子ども達も職員も大きな笑い声で楽しく過ごすごとができました。



その後は肝試し…。参加したけれど怖いなあ…と怯えながら参加する子、今年は参加するぞ！と意気込んで参加する子もいました。スタート前の怖い話で泣き出してしまおう子もいま



した。中高生のお兄さん、お姉さんが小さい子たちとグループになり一緒に地図を持ってスタートする姿はさすがと思いましたが、怖がらずに楽しんでたかもしれませんが、夏の風物詩を感じるのことができる時間となりました。小学生の子ども達も寝た後は中高生の子ども達の時間を作り、人狼ゲームや花火をして過ごしました。

2日目に帰るのは物足りないなあと、子ども達の中では感じた子もいるかもしれませんが、自分達で考えてテキパキと清掃をし、遊泳時間を増やそうと協力する姿を見て、頼もしく感じました。

今年度の琵琶湖キャンプは「自然の中でしか経験できない楽しみを味わおう！」「ルールを守って友達と仲良く過ごそう！」ということを目的とし取り組みました。夏の暑さにも負けず、周りの子ども達と楽しく遊ぶ姿を見て無事目的を果たすことがで

きたのではないかと感じています。何気ない子ども達の一言や表情から、日常生活とは違った穏やかな気持ちで素直に楽しむことができているんだなあというのを感じることができ、今年度も無事に実施する事ができて良かったと感じています。今年度のキャンプ中に、来年度のキャンプの話が子ども達から聞こえてくるほど、子ども達にとって琵琶湖キャンプが大きな経験の一つになっているということが改めて感じることができました。今回のキャンプで経験したことが、普段の子どもの生活にプラスの影響があればと思います。また、職員も子ども達の新しい一面を見ることができ、一人ひとりの強みも感じることができました。今回のプログラムを通して、自然の中での経験が子ども達一人ひとりの成長にとってより良いものになっていければと願っています。

(川野 結衣)



《社会福祉法人 神戸真生塾》

二〇一八年度 事業計画

我が国の児童の養育環境が年ごとに低下しており、改善の方向と、養育の高度化が叫ばれて来ています。社会的養護児童の養育についても、一昨年6月に改正の社会福祉法人法と児童福祉法の改正に見られるとおり、児童の更なる人権擁護が叫ばれています。特に、施設内児童虐待の撲滅は、我々児童福祉施設の関係者として大きな課題であります。

そしてまた、昨年の7月31日、厚生労働省の特別委員会「新たな社会的養育の在り方に関する検討会」が「新しい社会的養育ビジョン」を発表にあるとおり、社会福祉施設の組織力と経営力の強化が事業の基底として最重要課題であると示されています。

新たな2018年度における我々社会福祉法人の勤めと責任は更に拡がりを見せ、地域児童福祉への貢献へと繋がって参りました。これまで培われてきた施設としての能力を最大限に発揮し、社会に真に力として認められるよう研鑽・努力を行って参りたいと考えます。

施設毎の事業計画方針を以下に述べて参りますが、詳細につきましては、それぞれの事業計画書をご覧ください。

(1) 乳児院

真生乳児院と附属小児科診療所
ア) 新たな理念に基づく養育目標、養育指針

- イ) 各種支援の強化
- ウ) 人材育成の推進
- エ) 運営管理の改善
- オ) リフレッシュ業務の推進



(2) 児童養護施設 神戸真生塾

ア) 児童の人権擁護

施設入所児童の人権擁護における当該の具体的評価活動を実施します。

このために、全国児童養護施設協議会が推進する「被措置児童等虐待の根絶の取り組みの強化」に準じて、毎年職員一人一人が自ら行う「チェックリスト」による業務の自己評価と、第三者評価の自己評価を並行して実施して行きます。

イ) 養育計画の改善

児童の「養育計画書」の作成に当たっては、過去の第三者評価で指摘されたところ、アセスメント在りての計画であることを認識し、その上で重要事項の優先性を念頭に作成して行くものとします。

ウ) 職員と児童のグループ編成

今年度は、昨年度に引き続き同様の児童のグループ編成を継続したいと考えます。

編成は小規模グループケアで変更ありません。合計7グループすべてを継続して男女混合年齢縦割り方針については変更致しません。

問題発生を防ぎ子どもたちにとってより良い生活環境作りを達成して行きたいと願います。



(3) 子ども家庭支援センター

ロータリー子どもの家

ア) 地域見守り支援事業の推進・児童相談所からの指導委託

イ) 地域活性化への寄与

ウ) 人材育成の強化

エ) 里親トレーニング事業の推進

(4) 幼保連携型認定こども園

真生きらきら保育園



幼保連携型認定こども園への移行に伴う新しい事業運営の早期確立を図る。子どもたちへのアドボカシーを行う。そして子育て家庭支援の推進を図ります。

(5) 児童自立生活援助事業

神戸市立自立援助ホーム子供の家

自立援助ホームの入所対象者の年齢が22歳に引き上げられました。引き上げに伴う諸問題の解決に取り組む一年となります。

そして、退所対策への取り組みを新たな課題として参ります。

児童養護施設 施設長

富川 和彦



新任職員紹介

児童養護

藤田 実希

〔趣味〕 映画鑑賞
音楽鑑賞

〔特技〕 写真を撮ること

〔抱負〕 まだまだ戸惑うことも多々ございますが、安心

感と信頼感を与えられる職員となれるよう、笑顔忘れず、子ども達の喜怒哀楽に寄り添いながら日々成長していききたいです。



乳児院

和泉 はる

〔趣味〕 料理、バレエ
バドミントン

〔特技〕 立ち直りが早い所

〔抱負〕 中学生のころから乳児院という所に興味があり夢だった職業に就く事が出来とても嬉しいです。子ども一人ひとりの発達を理解して関わり安心して楽しめる環境を作りが出来るよう精一杯努めていきたいです。



後藤 望美

〔趣味〕 カメラ

〔特技〕 手芸

〔抱負〕 入社して少しずつ慣れ、楽しい事も沢山ありますが、まだまだ悩む事ばかりです。先輩職員の方々から学び、子ども達とじっくり向き合って成長していききたいです。



上野 真実

〔趣味〕 ボルダリング

〔抱負〕 経験、知識共にまだまだですが、先輩方の力も借りながら、少しでも子ども達が幸せを感じ、笑顔で過ごせるような手助けが出来ればと思っています。よろしくお願います。



前田 紗希

〔趣味〕 カラオケ
USJに行く

〔特技〕 歌う事

〔抱負〕 地域支援の専属の栄養士として、地域に住む方々の安心のために、幅広く活躍していききたいと思っています。



認定子ども園・保育園

星野 真由美

〔趣味〕 裁縫

〔特技〕 スキー、水泳

〔抱負〕 子どもたち一人ひとりと寄り添い関わりを大切にしていきたいと思っています。また、保護者の方が安心して預けることができるようにしていきたいと思っています。よろしくお願います。



福家 静

〔趣味〕 野球観戦、漫画鑑賞

〔特技〕 球技

〔抱負〕 毎日たくさんのかわいい子どもたちと楽しく過ごしています。今までの経験を活かしながら、様々な行事を通して子どもたちの成長を見守り、たくさん思い出を作っていきたいです。



坂東 遥

〔趣味〕 愛犬の散歩

〔特技〕 テニス

〔抱負〕 初めて経験することばかりで戸惑うことも多いですが、1日でも早く仕事を覚え、子どもひとりといねいに関われるようになりたいです。よろしくお願いたします。



大北 春菜

〔趣味〕 カメラ、小旅行

〔特技〕 絵本を感情豊かに読み聞かせること

〔抱負〕 常に子どもの目線になり、伝えたい思いに寄り添いながらいねいに応えていけるよう努めていきたいです。また、資質の向上として保育教材や保育内容について学んでいきたいです。



《児童養護

神戸真生塾》

創立記念日

五月二十七日、天候にも恵まれた中、今年も神戸真生塾の創立百二十八周年の感謝礼拝、お祝い会ならびに墓前礼拝を行うことができました。神戸真生塾の創立記念日は百二十八年前の五月二十三日です。毎年、創立記念日をお祝いするたびに神戸真生塾の長い歴史の重みと、それを支えてきた下さった近隣や関係機関の皆様、また、これまで神戸真生塾の発展にご尽力いただいた職員の皆様に対し深い感謝の念を禁じ得ません。

心静かに礼拝のひと時を過ごした後、二階のホールで和やかにお祝い会が行われました。今年も、昼食のメニューは神戸真生塾定番のカレーライス。その上に、ウインナーやシーフード、ゆで卵といった様々なトッピングを思い思いに乗せて、自分だけのカレーライスを楽しみました。

OB・OGの方も参加して下さり、神戸真生塾で生活していた当時の思い出を語って下さいました。どの方も、「琵琶湖キャンプ」がとても楽しかった行事

として印象に残っておられるようでした。現在、入所している子どもたちも琵琶湖キャンプが大好きです。時代を経ても愛され続ける行事を継続することも大切ですし、琵琶湖キャンプ以上に楽しいと思えるイベントも考えてあげたいと感じました。



墓前礼拝では、富川施設長よりそれぞれのお墓の説明をして頂き、私も含め、初めて参加した職員や子どもたちは初めての知識を与えられ、少し自分たちが深くなれたような気持ちになりました。



りました。

お祝い会の中で、神戸真生塾の各事業所の紹介をスライドショーを用いて行いました。今年度から、保育園は幼保連携型認定こども園へと移行し、新たな形態をとることとなりました。福祉は、常に時代の変容に合わせていく事が不可欠です。特に、今、児童福祉は大きな転換期を迎えています。キリスト教主義という神戸真生塾の基礎を大切にしながら、これからの時代に即した福祉を実践していけるように職員ひとりひとりが子どもたちと手を取り合い、みなさま方と共に、一年、また一年と歩んでいけたらと思っております。

(正木 陽子)

子どものつがやき

★毎年恒例の琵琶湖キャンプが台風で一泊二日に短縮。保育士が「7月30日と31日になったよ」と言うと、Sくんは「えーっ、32日も行きたかった!!」

(Sくん・6歳)

★Hくんがご機嫌で「くまもと見ていた かくれんぼ〜♪」と歌っていました。

(Hくん・5歳)

★保育士が「このあいだ、淡路島行ってきたよ」と言うと、Yちゃんが「オニおった?」。オニがいるのは鬼ヶ島だよ。

(Yちゃん・7歳)

★献立表を見ていたKちゃん「やったー今日は大好きなきゅうりとカマカニの酢のものがある!!」。カニカマの酢の物ね。

(Kちゃん・10歳)

★「お姉ちゃん、まつぼっこり見つけたよ〜」と嬉しそうに持ってきたKちゃん。まつぼっこりだね。(Kちゃん・14歳)

★保育士が間違ったことをして「お姉ちゃん、間違えちゃったわ」と言うと、「だいたいようぶ、

だいたいようぶ、そういうこともあるって」と7歳のYちゃんがなぐさめてくれます。

(Yちゃん・7歳)

★「ちようちよ、ちようちよ、どこかにとまれ〜」とご機嫌で歌っているHちゃん。「どこか」じゃなくて、「葉の葉だよ。」

(Hちゃん・6歳)

★外に軽石がたくさん落ちていたので、「これ、どうしたんやろ?」と保育士がつぶやいていると、「それ、化石(かせき)やで!空から降って来てん。」とK君。「空からやつたら、化石ではなく、隕石(いんせき)やわ。」どちらにしても、大変だ!

(Kくん・9歳)

★子どもと夏休みの話しをしていたとき。

職員「みんなは夏休みがあつていいな。大人も夏休みほしいわ:」
Nちゃん「いいやろ?夏休みあげよつか?大人も宿題あるで〜(笑)」

職員「宿題ある夏休みはもういりませ〜ん(笑)」
(Nちゃん・8歳)

2017年度 行事報告

4月

ストリートミュージアム
(三宮センター街2丁目商店街
復興組合)
春の子ども会(関西学院高等部・
神戸女学院高等部)

5月

小学生ハイキング
真陽フェスティバル
(真陽地区自治会)
創立記念日

6月

野球観戦(オリックス宮内財団)
地引綱
(リア充ひょうご実行委員会)

7月

熊野神社夏祭り・こども御輿
元町夜市
(熊野神社)
(神戸元町商店街連合会)

8月

琵琶湖キャンプ
教会キャンプ(神戸教会)
ともしびクッキング
(大阪ガス株式会社)



9月

納涼大会
女子バレーボール大会
リレーフォーライフ
ボランティア



10月

乳児院合同ぶどう狩り
兵庫協会善意の釣り大会
(全日本サーフキヤスティング
連盟兵庫協会)
アイススケート

11月

アイススケート
(神戸ポートライオンズクラブ)
七五三(着付け 田中様)
秋のこども会(神戸女学院)
ハッピードリームサーカス

12月

餅つき大会(神戸サウナ&スパ)
『2017KOBEL光のプロジェクト』
バス訪問(神戸市交通局)
クリスマスお食事会
クリスマス祝会
お餅つき

1月

お正月 初詣
『第10回KOBEL夢・未来号・沖繩』
(KOBEL三宮・心と街創り協議会)
雪遊び

2月

節分
出向防災お菓子リユック作り
(おいしい防災塾)
キツザニア甲子園〜三井住友
海上スペシャルナイト〜
(三井住友海上火災保険株式会社)
グリーンカップ(市養連)

3月

児童育成キャンプ
(ライオンズ国際協会)
ボクシング観戦(株式会社BIB)
卒園・卒業お祝い会



ありがとうありがとうございました

寄付並びに児童招待ご芳名

敬称略・五十音順
(二〇一八年二月〜七月三十一日)

寄付金

大社 貴子 / 數田 紀久子
神戸聖愛教会女性会

國府 良 / 白坂精子・勝木光江
中村 淳子 / 橋本 明
綿谷 栄子

寄付物品

アサヒ飲料株式会社
イケア・ジャパン株式会社
植田 奈緒美
上野 尚彦
植村 知美
大社 貴子
株式会社オージス
株式会社三宝
株式会社チュチュアンナ
協同食品株式会社
有限会社ダスカジャパンクアテモック
公益財団法人日本漢字能力検定協会
神戸市シルバークレッジ
ボランティアアクッキーの会

芝地 義則
島田 千里
神果神戸青果株式会社
タリーズコーヒージャパン株式会社
ファイブイントウロジステイクス株式会社
フィリップモリスジャパン合同会社
水野 久美
吉田 真弓
李 鴻志
P&G株式会社
KETTLY JAVERI





《真生乳児院》

楽しい季節行事



いちご狩り

五月二日(晴れ)子ども達の元気な声が聞こえます。今日はいちご狩りです。保護者の方、職員と共に観光バスに乗って出発です。初めてバスに乗る一才男児、少し不安なのか職員の手を小さな手で「ギュッ」と握っていました。バスが走り出し外の景色を見ていると「あ、○ー！」と声を出し、握っていた手は指差しへと変わっていました。いちご畑に着くと大きくて赤いいちごがいっぱいです。「わあー！」と言う子ども達。食べるととても甘くて「おいしいね。」と笑顔いっぱい、何度も何度も、取っては洗って食べていました。お腹いっぱいになると、れんげ畑の中を走り回り、ピョンピョン跳ねる蛙を見つけ、職員が捕まえると「見せてー」「ちょうだいー」と言って蛙に触れる子どもや、見ているだけの子ども、後退りする子どももいて、いつもとは違う表情をたくさん見せてくれました。昼食はフルーツフラワーパー

ク内にて、栄養士たちが心こめて作って下さったおにぎりや鶏のからあげを、パクパクとお口いっぱい頬張りながら食べていました。暑い中、保護者の方々も子ども達に寄り添って下さり、楽しい一日を過ごすことが出来ました。本当にありがたうございました。きっと子ども達の心の中に、思い出の一ページとして残ったことと思います。体調不良により参加出来なかった子ども達、今度は必ず一緒に行こうね。

(本谷 香)



こどもの日



五月五日はこどもの日です。真生乳児院では毎年、子ども達が健やかに大きくなりますようにと願いを込めて、子ども達

と職員みんなでこいのぼりの下で柏餅を食べます。今年も、みんなで大きな声で元気いっぱいこいのぼりの歌を歌って、柏餅を美味しく頂きました。五月の爽やかな風に吹かれて、晴天の空の中を気持ちよさそうにこいのぼりが泳いでいました。こいのぼりは、毎年四月末になると院庭のポールに泳がせられます。私がこいのぼりを持って院庭に現れると、早速子ども達が集まってきて「つけるの手伝ってあげるわー」と手伝ってくれます。風が吹いてこいのぼりが泳ぐと「わー!!」と大きな歓声が上がります。こいのぼりのしっぽに触ろうと一生懸命手を伸ばしておいかけていました。そして、こいのぼりと共に正面玄関に登場するのが、五月人形と虎の人形です。虎の人形は三年ほど前に職員から寄贈されたものなのですが、初めてお目見えした頃は、この虎が怖くて怖くて、玄関に行くのを嫌がる子どももいたほどなのですが、三年も経つ

と慣れてきます。今年も、出した時は恐る恐る近寄って触るといった具合でしたが、一週間も経つと、頭を叩かれる、しっぽも取られる、耳が折られる、挙句の果てには定位置の玄関にいない、と思ったら、廊下の真ん中に連れ去られていたりします。五月の末に大役を果たして倉庫にしまわれる頃には三年にしてすでにぼろぼろの虎。来年もめげずに子ども達のお相手よろしくお願います。今年も、子ども達にこいのぼりのうるこに絵を描いてもらい、大きな緑色のこいのぼりに貼って、正面玄関に飾りました。みんな思い思いに絵を描いたり、お願ひ事を書いたりしました。こどもの日に、ジャンダールジムに飾ると、子ども達は自分の絵を探して、見つけると「あったー!」「見て見て!」と嬉しそうに教えてくれました。来年は、どんなこどもの日になるのでしょうか?今から楽しみです。

(井上 裕子)



平成 30年度行事報告

四月	お花見
五月	こどもの日
六月	いちご狩り
七月	七夕
八月	プール遊び
八月	琵琶湖キャンプ
八月	納涼大会
八月	デイキャンプ
九月	合同運動会
九月	ぶどう狩り
十月	院内運動会
十一月	人形劇合同交歓会
十二月	七五三
十二月	収穫感謝祭
十二月	クリスマス祝会
一月	お餅つき
二月	お正月
三月	節分
三月	ひなまつり
その他	お泊り保育
その他	お誕生日会
その他	お喰い初め
その他	バーベキュー

《幼保連携型認定こども園
真生きらきら保育園》

7月の園だよりより

園長 上杉 徹

「あそぶってあほみたいなことやめる」これほど衝撃を受けた子どもの言葉はあったでしょうか。今年の3月2日、親の虐待が原因で幼い命が失われた後に出てきた5歳の女の子の両親にあてて書き残したメモの中身です。このメモは女の子が毎朝父親に強いられてひらがなの練習をしていたノートに書かれていました。私は入園式の際にいつも子どもたちに、そして保護者の皆さまに語りかける話の中で一番大切に考えていることは『子どもたちの仕事は「あそぶこと」です。』ということを伝えていきます。「あそび」は決してあほみたいなことではなく子どもの「あそび」が「学ぶこと」であるからです。子どもたちは毎日のあそびの中で学んでいます。あそびを通して文字を自然と覚え、自然の事象を体験的に学び、数量や図形などの小学校に向けた「勉強」につながっていくことを自らの必要感に基づき身に着けていきます。ここには教え込むことはありません。

7月の保護者会では3歳児ぶどうぐみの泥んこあそびの場面を映像で見てくださいました。子どもたちは一生懸命に穴を掘り、川をつくり、水を運んでいました。どの作業一つを取っても担任から強制的にさせられているのではなく、担任が事前に入念に計画した環境構成と期待感を持たせての言葉がけに、子どもたち自らの興味と関心が相乗効果となってひたむきにあそぶことにつながりました。黙々と砂場に穴を掘り、水を運ぶ勤勉な子どもたちのあそぶ姿を見て「日本の将来も安泰だな。」と感じました。この夏は異常なくらい暑い日が続いています。熱中症には細心の注意を払いながら子どもたちのあそびたいという思いを最大限に守ることができ環境を整えていきたいと思えます。

7月のクラス
だよりより

暑い、暑い夏がやってきました。7月からはプールあそびが始まりました。ときの保育室の前に1人1個ずつ水の入ったタライを用意し、子どもたちはそれぞれのタライに浸かってのんびりゆったりと水あそびを楽し

むことができました。以前から水に触ることが大好きだった子どもたち。水が顔にはねても嫌がったりすることなく、むしろ大喜びでザブザブ、バシャバシャと水の中で元気に体を動かす姿がありました。水の中がまだちよびり苦手なお友だちもタライの外で水あそび用の玩具であそんだり、保育教諭に抱っこされて足元だけ水に触れてみたりしながら少しずつ水と仲良しになっていきますよ！

生活面では食事やお昼寝の場面です。これまでは保育教諭に身を委ねるだけだった子どもたちの中に「好きなこと」「好きじゃないこと」の区別が芽生え、少しずつ「イヤイヤ」の反応が見られるようになってきました。子どもたちの心の声にしっかりと耳を傾け、対話を重ねながらいてねいに子どもたちと向き合っていきたいです。

担任 請川 まり子



7月は晴れた時には泥んこあそびや水あそび、プールあそびを思う存分楽しんでいきます。泥んこあそびは砂場に穴を掘り、道を作るとそこに水を流し「もつと水いれてー」とタライに入っ

た水がバケツで運んでいました。穴に水がたまると足をそーっと入れ「きもちいいー」と言ったかと思うと両足跳びジャンプが始まり、泥水のしぶきがいつぱい!!担任は服、泥はね!!そこまでする!!と思いつつ「まあーいいか!」と楽しみました。はじめは泥水に入ること躊躇(ちゆうちよ)していた子どもも、その様子をみながら大胆にあそびはじめていました。プールあそびでは水に対する子どもたちの様子をみたいとビニールプールに入りましたが、物足りず大きなプールに入りました。水の掛け合いで顔にかかることを嫌がる子どももいるので、無理をせず、担任が水を掛けられる的となりました。子どもたちはとてもいい顔をして的の担任に水をかけ「キヤーキヤー」言っているうちに子どもたちから「的になりました!」と輪の中へ来る子どももあり、水をかけられながら少しずつ水に慣れようとしています。プールあそびでのルールを守り

ながら、休息をいれながら楽しくプールあそびができるようにしたいと思えます。

ぶどうぐみのやる気パワーがもうひとつ!プールなどで着替えることが多くなり、手伝わなくてもほとんど自分で着替えができるようになってきました。脱ぐことが難しい子どもには仕方を知らせたり、友だちが脱いでいる様子をみせたりしながら習得していつています。先日はこんなことがありました。着替えることが遅くなったAちゃんがうまく脱げなくてそれでもがんばって脱ごうとしていると「これ、こうすんねん。」と教えてできると「ほら、できたやん。」と誉めたりしているのです。今までの自分のことだけで精一杯だったのが、他に目を向けられるようになり、同じクラスの友だちと意識し、「がんばれ。」と応援したり、できたらみんなで認め合っています。友だちとのつながりが、うまくできてきたなあと思える微笑ましい一面でした。

ぶどうぐみ(3歳児)

担任 岡村 孝美



子育てホットライン(相談専用)

TEL:078-341-6493

年中無休午前9時～午後6時(緊急の場合は夜間も可)

神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)

Homepage <http://www.rotary-kodomonoie.org/>

facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomonoie>



子育てに困ったら
先ず電話相談!

子ども家庭支援センターロータリー子どもの家

2017年度実績報告

センター長 久山 啓

2017年度の相談実績は、一般相談1,551件(実人数212人)、指導委託ケース相談1,042件(実人数8人)、被虐待児地域見守り事業ケース相談995件(実人数5人)でした。相談の総件数は3,588件(実人数225人)となり、2016年度からは46件増となりました。また、子育て支援事業等の参加者のべ人数は6,683人となっております。相談者と参加者の総のべ人数は10,271人でした。

2017年度の児童福祉法改正により、子育て支援や虐待対応、里親支援等が大きく変わり始めており、児童家庭支援センターも求められている役割が変わりつつあります。当センターでは、児童相談所から指導委託(2号措置)のみならず、虐待の予防や再発防止のために創設された被虐待児地域見守り支援事業を受託しており、支援がなければ施設入所に至ってしまうような重症度の高い虐待ケースに対する支援も増えています。また、市町村の虐待対応の窓口である各区域子ども家庭支援室からの相談や連携も増えています。

そのような中で、当センターでは昨年度より子育て支援のソーシャルワ

相談・利用のべ人数表(人)

相談	電話	2,198	3,588
	来所	709	
	訪問・派遣	594	
	その他	87	
利用	野外活動	228	6,683
	子育てひろば	514	
	子育て講座	173	
	プレイルーム利用	3,595	
	その他	2,173	
	合計	10,271	

カ、心理士、保育士がそれぞれの専門性を活かして支援していくチームでの支援体制を導入してきました。

また、虐待予防において「地域」としても大切で大きな力となる可能性も持っていますが、核家族化が進み、家族や地域住民の結びつきは弱まってしまっている現状があります。そのため、当センターでも虐待を減らし、予防していくためには、「地域」へのアプローチも必要であると考えています。近隣の高齢者施設で始まった子ども食堂に顔を出し、食事だけでなく子どもたちの居場所として機能するよう支援したり、貧困家庭の子どもを結び付けたりしています。また、蜂蜜を作っているNPO法人B&Fの事業に協力し、食育だけでなく、人や地域との繋がりを作り、地域への愛着を生むこと等、地域活性化へ寄与していきたいと考えています。

神戸真生塾苦情処理委員

苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センターロータリー子どもの家センター長)

川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)

山口 芽久未 (真生きらきら保育園 主任保育士)

網谷 仁志 (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)

富川 和彦 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)

数田 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)

上杉 徹 (保育所 真生きらきら保育園 園長)

竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家施設長)

森光 規之 (当法人 監事)

中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)

苦情受付件数 平成30年 2月から7月末まで 0件

編集後記

今年は何年になく厳しい暑さとなりましたが、子どもたちは元気いっぱいになんて虫取りをしたり、琵琶湖キャンプに行つて遊んだり職員共に楽しく毎日過ごしています。

今回も皆様に広報誌「愛」40号をお届けできましたことをとても嬉しく思います。これも皆様の暖かいご支援、ご協力があるからこそだと思います。心より感謝致します。これからも子ども達のよりよい幸せを願い、心に寄り添っていきたいと思います。

今回も広報誌を発刊するにあたりご協力いただきました方々、また日頃よりご支援いただいているすべての皆様にお礼申し上げます。(菊地なつき)